

川崎市のイメージアップに関する提案

史 中超 研究室

1131178 船戸 香菜子

1. 研究背景・目的

1960年代、日本は高度経済成長を迎え川崎もその重要な役割を担う都市の1つであった。工場が多く建設されたことにより生産が盛んになったことで市民の暮らしは豊かになったが、工場から出る煙や汚染水によって喘息などの健康被害を受けていたことが理由で「公害のまち」と呼ばれていた。現在でもその事実は尾を引く存在となっている。



図1 工場の煙[1]

川崎市のすぐそばを流れている多摩川の河川敷には、たくさんのホームレスがブルーシート小屋を建てている。その周辺に不法投棄されているゴミやブルーシート小屋によって損なわれる景観が川崎市の悪いイメージへと繋がっている。また、川崎市は歓楽街が盛んなことでも有名なまちであり良いイメージ持たれてはいない。

上記の工場・河川敷・歓楽街が川崎市への悪いイメージダウンに繋がっていると考えられるため、本研究では、川崎市の上述したような悪いイメージを改善するために、環境を重視したまちづくり

を中心に観光面からも改善策を提案する。

2. 情報収集と現状の調査

現地調査に行く前に、ネットで情報収集を行った。Yahoo知恵袋、教えてgoo、OK Waveなど様々な質問サイトで「川崎市のイメージは何か」という質問がされている。工場地帯・風俗街・ホームレスこの3つの単語が使われた頻度が高かった。そして、2013年6月17日に日本テレビで放送された「月曜から夜ふかし」という番組ではイメージの悪い街として川崎が話題にされていた。主な内容は以下の通りだ。

- ◆昭和30年頃、工場の排煙が原因で起きた大気汚染が理由で喘息患者が急増した
- ◆江戸時代から歓楽街として栄え、現在でも風俗街が存在していること。競馬や競輪などの公営ギャンブル施設もあるため品が悪い [2]

以上の情報元に、川崎駅周辺の現地調査を行った。

工場地帯

現在の工場地帯は、以前のような公害被害というのはいない。大量の煙や黒い煙は出しておらず、浄水場もあるため水質にも問題は無い。公害のまちであった面影といえば工場地帯ということだけだが、大規模であるからこそまだ公害のまちであるというイメージが持たれていると考えられる。

多摩川の河川敷

河川敷について、多くのホームレスが住んでおり、数にして多摩川の全体では約650人、川崎

市と大田区に限定しても450人ほどが住んでいる。ブルーシート小屋の立ち並んでいる側にある通りには、並木・煉瓦造りの歩道・川・景観としてはいい景観であると言えるのだが、ブルーシート小屋やその周辺に散乱するゴミによって悪いイメージがついてしまっている。



図2 ブルーシート小屋が立ち並ぶ河川敷

堀之内町

川崎の堀之内町は風俗街として有名である。人通りはなく閑散としているが店の前に等間隔で客引きのための人が立っており、男性が通ると話しかけられているのを見かけた。不健全な看板も多く違和感が感じられる。

3. 環境的観点から改善策の提案

川崎市のホームページでは川崎市の歴史やまちづくり、川崎市の魅力など様々な情報が記載されている。しかし、より魅力的なまちであることをPRするには、それらの情報だけでは十分とはいえない。ここで、川崎市のイメージアップについて、いくつかの提案をする。

(1) ガイドマップを作成し無料配布する

ラゾーナ川崎やアトレ川崎などの大型ショッピングモールが多数展開されており、休日にはたくさんの買い物客、観光客で賑わっている。初めて川崎を訪れた人にまた来たいと思ってもらえるように、どのような娯楽施設、観光名所があるかといった内容のガイドマップを作成し、買い物をした人に無料で配布することで市民以外に魅力伝えることができる。風俗街が与える品が低いイメージや工場が与える空気が悪いイメージを拭うことができると考えられる。

(2) 住民参加型の環境イベントの開催

川崎市の取り組み事業としてグリーンカーテン作りや植林事業がある[3]。この二つの事業について環境イベントを通して多くの人に知ってもらうことで、工場地帯の空気が悪いイメージや河川敷の景観が悪いということを改善することができると考えられる。イベントに参加する人にはグリーンカーテンや植林の役割の説明や、木の枝や実、葉などを使ったものづくりなどを通じて、さらにイメージアップの効果が高まると思われる。

(3) 子供への環境教育

河川敷にゴミが不法投棄されていることから、市民に法律やゴミの分別方法を教える必要がある。小学校・中学校でゴミの分別方法を学べる環境を作り正しい分別ができる大人へと育てることが必要である。具体的には、絵のついたカードを使い燃えるゴミ燃えないごみに分けるよう指示し、パズルゲームのようなゲーム感覚で楽しく覚えさせる。このような取り組みによって市民の環境への意識が高まり正しいゴミの分別方法が身につくことができ、不法投棄も減らせると考えられる。

4. まとめ

川崎市は様々な対策や再開発により魅力的な都市へと変わってきているが、いまだに「公害のまち」と誤解されている。本研究では、川崎市のそういったイメージを改善するために、環境を重視したまちづくりを中心に改善策を提案した。

5. 参考文献

[1] 黒いけむり、さようなら

<http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000001454.html>

[2] TV でた蔵

<http://datazoo.jp/tv/月曜から夜ふかし/649825>

[3] 川崎市みどりの事業所推進協議会

<http://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000018403.html>